

群馬県立しらがね特別支援学校 学校評価一覧表②(令和4年度版)

(様式2)

羅針盤			グランドデザイン/主な分掌	達成度			改善状況のまとめ	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		①	②	総合		
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	①保護者の80%以上が、たよりや学校のホームページから学校の様子がよくわかると感じている。	地域/教務部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での児童生徒の様子を写真や文章でわかりやすく、タイムリーに保護者に情報発信することができた。しらがね祭においては、webページで動画配信も行い、自由に視聴ができるよう工夫できた。</li> <li>・昨年度の反省を元に、しらがね祭への協力のアンケート後、前日、当日の協力にいただける家庭には担当割り振りの通知を出し、確認を事前に行う。</li> <li>・保護者や学園職員から聞き取りをしながら、個別の教育支援計画を作成した。保護者や学園職員のニーズが明確になった。</li> <li>・直接交流を1回、間接交流を3回行った。様々な要因から、交流相手と十分に連絡を取り合うことが難しいこともあったが、事前に話し合ったりリモートのリハーサルを複数回行ったりしながら、当日は充実した交流をすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の行事予定と照らし合わせながら、webページ上に掲載する活動を各学部の担当者と確認し、計画的に情報発信ができるようにする。また、更新情報についても、引き続きメール連絡網を利用して伝えるとともに、たよりでも掲載についてのお知らせができるようにする。</li> <li>・さらに保護者が参加しやすいPTA活動の内容や周知の仕方の工夫をする。</li> <li>・最初の学園生保護者面談の前に、学園職員と支援の基本方針について共通理解を図る。</li> <li>・感染症対策を行いながら、安全な交流方法を選択していく。その中でも充実した交流を行えるように、交流相手と話し合いを重ねていくようにする。</li> </ul>
		②PTA活動を年3回実施し、参加率が70%以上である。	地域/渉外部	A	A	A		
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③保護者の90%以上が「個別の教育支援計画」の内容について、関係機関と共有できる内容となっていると感じている。	笑顔/渉外部	A	A	A		
		④交流及び共同学習実施の意義や交流形態について、保護者や関係機関の80%以上が賛同している。	友情/渉外部	A	A	A		
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	⑤地域の幼保小中学校等から年間200件の要請を受けて助言・援助に当たり、担任の取組に改善が見られた割合が80%以上である。	地域/渉外部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談を依頼してきた担任や学校のニーズをよく聞き取り、丁寧に対象児童生徒の実態を伝えるとともに、担任の考えを確認しながら支援内容を決めていく。</li> <li>・各学校や講演会の研修内容として、「特別支援教育の視点を取り入れた指導」について提案してきた。60分ケース会議についても紹介した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任の支援方法を詳しく聞いた上で、困っていることを整理し、前向きに保育や教育に向かえるような支援を心がける。</li> <li>・事前の打ち合わせを綿密に行い、ニーズを詳しく把握してから研修会を実施する。60分ケース会議の普及に努める。</li> </ul>
		⑥地域の学校等で、60分ケース会議を含む研修会を実施し、指導の参考になった教職員が80%以上いる。	地域/渉外部	A	A	A		
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑦個々の児童生徒のニーズに応じた教材教具(ICT機器の活用も含む)を工夫した指導・支援ができるかと回答する教員が80%以上である。	笑顔/学習指導部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校職員を対象にICTを活用した実践事例の研修を3回行った。</li> <li>・保護者面談の機会を活用して、保護者の意向を聞いたり、学校での取組や課題を説明したりして、個別の指導計画において保護者の願いや児童生徒の実態に合った目標・内容が設定できるように努力する。</li> <li>・校内研修において、本校の児童生徒の特性を考慮した講演会を6回実施した。児童生徒の特性を踏まえて個別の指導計画の目標や手立てを設定する上で、参考になったと思われる。</li> <li>・児童生徒の実態をよく把握した上で、実現可能な目標を設定するように心がけた。また、実践途中で目標等の変更が必要な場合は、学部主事等の了解を得てより良い目標に設定し直した。</li> <li>・「太田ステージ」の実態把握法以外のアセスメントの方法について、企画委員会等の議論を経て学習指導要領に既習事項を記録することで、アセスメントとする方法を全校で確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した実践事例については、来年度も研修を行いたい。また、各教科ごとに教材を集約し、共有する試みをさらに推進したい。</li> <li>・今後も、保護者面談の機会を活用して、保護者の意向を聞いたり、学校での取組や課題を説明したりして、保護者の願いや児童生徒の実態に即した個別の指導計画の作成に心がける。</li> <li>・校内研修に個別の指導計画の作成がどう反映されるのかをよく検討し、必要に応じて羅針盤における「具体的数値項目」の変更の検討も行う。</li> <li>・今後も、実態把握を基に実現可能な目標を設定する。また、目標等の変更の校内確認の方法について、全校で共有できるようにする。</li> <li>・全校統一されたアセスメントの方法を年度初めに全校に周知するとともに、太田ステージの実態把握法の研修を新転任者研修として取り上げる。</li> </ul>
		⑧90%以上の保護者が「個別の指導計画」について、保護者の願いや児童生徒の実態に合った目標・内容となっていると感じている。	地域/学習指導部	B	A	A		
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑨80%以上の教員が個別の指導計画を作成するために校内研修が参考になったと感じている。	笑顔/学習指導部	A	A	A		
		⑩「個別の指導計画」に掲げた目標の達成率が90%以上である。	笑顔/学習指導部	A	A	A		
		⑪アセスメントに基づいて個別の指導計画の目標を設定したり、目標達成のために授業の単元や題材を設定したりして、よりよい授業づくりに努めていると回答する教員が90%以上である。	笑顔/学習指導部	A	A	A		
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑫児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、関係者の85%以上が情報共有できていると感じている。	元気/保健部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康上の配慮や緊急対応について、保護者との連絡を密にし、職員への情報共有や共通理解を図れた。緊急対応について、今後も情報共有や校内体制の確認を進める。</li> <li>・ラーニングスペースの間仕切り工事、棟間通路の雨漏りの修繕、ウッドデッキの撤去等、業者が関わる工事や修繕が進められている。さらに、網戸の設置などを進め、生活環境を改善することが課題である。</li> <li>・業務改善推進委員会を中心に、引き続き、業務の縮小や廃止を含む効率化を追求する。ICTの活用については、令和5年度に新設予定のDX推進係を中心に進める。取組状況等を積極的に外部発信していきたい。</li> <li>・ヒヤリハット事例を職員間で共有し、再度対策を確認することで危機管理の意識を高め、事故を防止できた。また、緊急対応も安全に進められた。全員の職員が実際の場面で安全に対応できるよう、今後も継続的に研修を実施していく。</li> <li>・教職員の意識向上とともに、いじめ防止ポスターへの参加等、生徒自身がいじめ防止について考える活動を強化する。</li> <li>・緊急時に危機管理マニュアル通りに職員が対応し、児童生徒の安全が確保できるよう、さらに訓練を積み重ねると共に、危機管理マニュアルの修正を継続し、日頃から有事に備えていくことが課題である。</li> </ul>	
		⑬安全点検を全職員で毎月実施し、危険箇所改善率が95%にする。	元気/安全環境部	A	A	A		
		⑭業務の削減・廃止や改善、ICTの活用等により、80%以上の職員及び保護者が、多忙化解消に向けた取組に前進が見られると感じている。	多忙化解消/教務部・事務部	A	A	A		
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑮心肺蘇生法の講習会やアレルギー対応を含む緊急対応訓練等を年2回以上実施し、90%の教職員が対応について理解している。	元気/保健部	A	A	A		
⑯いじめの未然防止に向けた取組について、全ての教職員、保護者が満足している。		友情/生徒指導部	A	A	A			
⑰危機管理マニュアルに基づいて緊急対応訓練を年間3回以上実施している。		元気/生徒指導部・安全環境部	A	A	A			
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑱キャリア教育に係る授業を80%以上の教員が、年間3回以上行っている。	地域/進路指導部・学習指導部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期の前後にキャリアパスポートの記入を設定することで、キャリア教育に関する授業をすることになっているが、キャリア教育全体計画を吟味した上で、個々の授業がされているかどうかには課題がある。</li> <li>・学校Webページを活用し、進路たよりや支援施設申込に関する動画等を掲載することにより進路情報を速やかに発信した。</li> <li>・PTA施設見学会や保護者の希望による施設見学、臨時の就業体験等を実施することができた。</li> <li>・学園担当や保護者と情報交換を密にし、進路指導を行い、希望する就労先へつながることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初にキャリア教育全体計画について職員に周知し、進路に関する情報についても細かく伝えていく。</li> <li>・Webページ等を活用した進路情報や作業学習の様子など発信を速やかにし、進路指導に生かすことができるようにする。</li> <li>・特に学園生保護者の進路に関する意向を把握し、適切な進路情報の発信および進路指導を行う。</li> <li>・デュアルシステムを含めた作業学習の在り方、内容等についての見直しや検討を行う。</li> </ul>
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑲学校からの進路に関する情報について、保護者の95%以上が満足している。	地域/進路指導部	A	A		
	⑳関係支援機関や実習先、保護者との情報交換を年間3回以上実施し、その結果として保護者の90%が、関係機関等との連携が深まったと感じている。(高等部)		地域/進路指導部	A	A	A		
	㉑関係機関と連携しデュアルシステムを実施し、対象生徒の90%に変容が見られる。(高等部)	地域/進路指導部	A	A	A			